国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙，目次，あいさつ，編集後記，奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/922

国立国語研究所 第5回NINJALフォーラム

日本語新発見

―世界から見た日本語―

◆基調講演　世界の言語から見た日本語・日本語から見た世界の言語　角田 太作

◆講演1　近くて遠い、遠くて近い、フィリピンのことば タガログ語と日本語　片桐 真澄

◆講演2　日本語と韓国語、どこが似ている、どこが違う　金 廷珉

◆講演3　アイヌ語は日本語に似たようなものか？　アンナ・ブガエワ

◆講演4　日本語に特有と言われる現象はアフリカにもある：シダーマ語（エチオピア）の場合　河内一博

◆パネルディスカッション　角田 太作／片桐 真澄／金 廷珉／アンナ・ブガエワ／河内一博／ジョン・ホイットマン（司会）

国立国語研究所 第5回NINJALフォーラム

日本語新発見
―世界から見た日本語―

目次

◆あいさつ …… 1
影山 太郎

◆基調講演 …… 2
角田 太作
世界の言語から見た日本語・日本語から見た世界の言語

◆講演
片桐 真澄 …… 14
近くて遠い、遠く近い、フィリピンのことば タガログ語と日本語

金 廷珉 …… 21
日本語と韓国語、どこが似ている、どこが違う

アンナ・ブガエワ …… 29
アイヌ語は日本語に似たようなものか?

河内 一博 …… 37
日本語に特有と言われる現象はアフリカにもある: シダーマ語(エチオピア)の場合

◆パネルディスカッション …… 46
司会●ジョン・ホイットマン
角田 太作／片桐 真澄／金 廷珉／アンナ・ブガエワ／河内 一博

※発表者の肩書きは当時のものです。

あいさつ

影山 太郎
(国立国語研究所長)

皆さま、よくいらっしゃいました。2009年10月に国立国語研究所は大学共同利用機関という現在の新しい組織になり、2年半がたちました。新しい国立国語研究所は、国内外の研究者と大規模な共同研究を行い、その成果を、専門家だけではなく、一般の皆さまにも易しい言葉でお伝えするということをミッションとしています。そのため、本日のような公開講演会(フォーラム)を、これまでに4回開催してきました。昨年9月には日本語の文字、特に漢字について、この同じ会場で開催し、非常に好評でした。今日は第5回目になります。

今日のテーマはプログラムにありますように「日本語新発見―世界から見た日本語―」ということで、外国人の講師も交え、世界中のさまざまな言語の調査をされている専門家をお迎えして、日本語の特徴について、そして外国語との比較について話を聞くことにします。

表題に「新発見」という言葉が含まれています。日本語は日常使う言語だから、今さら発見なんてないのではないか、しかも「新」と付いているので、どういうことだろうか、と興味を持たれて、今日お見えになった方も多いのではないでしょ

うか。国語辞典で「発見」を引いてみますと、「今まで知られていなかったことを初めて見出すこと」とだけ書いてあります。なるほど、新しい彗星が発見されたというように、世の中の誰も知らなかったことを初めて見つけるのはまさしく発見ですが、しかし、既に人々が知っていることでも、発見と呼ぶことがあります。例えばコロンブスがアメリカ大陸を発見したというような場合です。ネイティブアメリカンの人たちにとっては、自分たちが住んでいる場所ですから、発見ではないはずですけれど、ヨーロッパ人の観点からすると新発見と呼べるわけです。

このように、発見という言葉を使うときは、誰の目から見て新しいのか、つまり、その発見がどういう観点から見て意義を持つのかを合わせて考えることが非常に重要です。今日のテーマである「日本語新発見」も、実は出てくる例文は誰でも普段使っている、ごくありふれたものですが、これが実は言語学の中のある観点から見て非常に意義がある発見である、ということなのです。

冒頭で申し上げたように、共同研究の専門的な研究の成果を一般市民の皆さまにできるだけ分かりやすくお伝えするというのが新国語研の使命です。今日の講師のメンバーは、まさしく現在取り組んでいる最中の共同研究の成果の一部を報告するという形になっています。そのために出てくる例文は、日本語としてはありふれた表現ですが、外国語など例では、難しく分かりにくいものがあるかもしれません。それは、一つはまだ十分にこの研究が練られていないからですが、私たちとしては、現在進行中の研究でもできるだけ早くお知らせしたいという意気込みがありますので、今日このような催しを企画した次第です。

案内のチラシの右側に「人魚構文の世界」という説明があります。人魚は、もちろんご存じのように架空の生き物で、胴体から上が人間、胴体から下は魚になっています。ここで人魚構文と称しているのは、荒っぽく言いますと、種類の違うものが二つくっついて、一つの表現になっているという意味で、英語ではマーメイド・コンストラクションと銘打っています。人魚はマーメイドですね。ところが皆さん、ご存じでしょうか。マーメイドという英語は、実は「マー」と「メイド」に切ることができます。「メイド」は未婚の女性という意味です。「マー」は昔の英語でmereといい、「湖」という英語です。「湖の乙女」というロマンチックな言葉がマーメイドです。ヨーロッパの世界では人魚には女だけでなく男もあります。マーメイドの「メイド」を「マン」に取り換えると「マーマン」となりますが、これが男の人魚です。私は実物を見たこともありませんが、英語の言葉としてはそういった仕組みになっています。この英語をご存じなかった人にとっては、今のマーメイドとマーマンの話しは、小さな「発見」と言えるのではないでしょうか。

今日は、そのように非常に小さなありふれていることだけれども、「私は知らなかった」、「なるほど、こんな意義があるのか」という数々の発見をお楽しみいただきたいと思います。では、最後までよろしくお付き合いください。

影山　太郎

編集後記

平成24年3月24日、第5回NINJALフォーラム「日本語新発見―世界から見た日本語―」を一橋記念講堂にて開催しました。フォーラムの開催趣旨は次のとおりです。

国内外の講師も交えて外国語から見た日本語、そして日本語から見た世界諸言語について講演してもらいました。また、日本語の特徴と思われるさまざまな現象を取り上げて、外国語にも存在するのか、存在しないのかについて検討しました。特に4つの言語――オーストラリアのワロゴ語、フィリピンのタガログ語、エチオピアのシダーマ語、韓国語、アイヌ語――に焦点を当てて日本語との比較を行いました。比較の主なテーマは、「太郎は大阪に行く予定です」という形の構文を考察することです。このような構文は、頭の「太郎が大阪に行く」までは動詞述語文ですが、しっぽの「予定です」は名詞述語文です。頭としっぽとが性質が違うので、「人魚構文」と呼ばれます。

「人魚構文」は毎日、何気なく、日本語では使われる表現ですが、欧米諸言語には存在しません。例えば、英語ではTaro is a plan to go to Osakaとは言えません。そのため、「人魚構文」は日本語の大きな特徴の一つであるわけですが、調べてみると、他の言語にも存在します。お隣の韓国語、アイヌ語で人魚構文を使うことはさほど意外ではないにせよ、フィリピンのタガログ語とエチオピアのシダーマ語にも「人魚構文」が存在するのはなぜなのか、ということについて、言語学者の立場から検討し討論しました。

本フォーラムが、日本語の特性、そして言語の普遍性についてより深く考えるきっかけになれば幸いです。

国立国語研究所　ジョン・ホイットマン

NINJALフォーラムシリーズ　3
国立国語研究所　第5回NINJALフォーラム

日本語新発見
― 世界から見た日本語 ―

2013（平成25）年6月21日
発行：人間文化研究機構 国立国語研究所
〒190 - 8561 東京都立川市緑町10 - 2
TEL 042 - 540 - 4300
FAX 042 - 540 - 4333
http://www.ninjal.ac.jp

撮影　田保橋　良
印刷　ヨシダ印刷株式会社

国立国語研究所

ISBN 978-4-906055-30-2